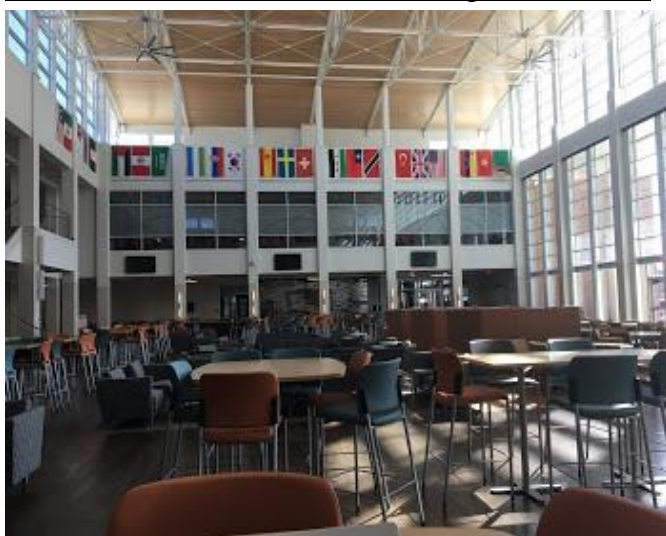


留学先：The University of Findlay

氏名：本田 涼哉

3月に入り、春学期も後半を迎えました。これまで通り学業と部活を両立して続けていますが、特に学業がじわじわと忙しくなってきました。レポートなどの課題や中間試験、ファイナルプロジェクトに向けての準備などでスケジュールが埋まってきています。前期よりも授業数を多くとっているため、より一層忙しさを感じています。それでは今月の報告に入りたいと思います。

©Center for Student Life and College of Business



経済の授業が主に行われている場所で、秋学期に完成したばかりの建物です。最近完成したばかりということもあり、学生はみんな **Business Building** や **New Building** と呼んでいます。フィンドレー大学はアメリカの大学の中でもかなりの小規模な大学なので、建物の完成一つが大きく注目されました。

フィンドレー大学の中で最も規模が大きく、学生の集まる場所です。建物内には食べ放題のカフェテリアとは別に、購買やテイクアウトの店が並んでいます。驚くことに、寿司も販売しています。普段は「郷に入っては郷に従え」という諺のように、なるべく現地の食事に合わせるようにしていますが、それでも日本食が恋しくなった時は、いつもこの建物にある購買で購入しています。

また、かなり開放的な空間であるため、学生の憩いの場であったり、大学の職員の方の会議の場であったり、様々な用途で使用されています。私も、あえて学食に行かず、この場所で友人と昼食を共にするときも多くあります。アメリカの大学の中でも規模が小さいとはいえ、施設の充実度の違いは日本の大学と比べて大きいと思います。学生が快適に生活できるような工夫がところどころに施されている点は非常に目を張るものがあります。

◎International Night (3/16)

3月の留学生活の中で最も印象に残っているのは、3月16日に開かれた International night です。このイベントは International students を中心に据えたイベントで、各国の文化を現地の学生もしくはフィンドレー市民と共有するという目的で毎年3月に開催される大学の中でも最も大きなイベントの一つです。ガーナ、サウジアラビア、スペイン、ブラジル、ナイジェリア、バングラデシュ、中国、ベトナムなど、世界各国から来たフィンドレー大学の留学生が自分の国のブースを設営し、食べ物をふるまったり、文化品を展示したりして自らの文化を紹介していました。なかでも、フィンドレー大学は日本人の交換留学生を最も多く受け入れているため、日本ブースが一番大きかったと思います。それぞれの留学生がそれぞれの国の民族衣装をまわって一つの空間にいる場面はまさにグローバル社会を感じさせる場面でありました。

日本文化ブースでは祭りをコンセプトにした文化展示や体験コーナーを設けました。うどんコーナーや、輪投げ、水風船釣りなど、観客の方が参加体験できるものを用意しました。日本チームの学生は法被を着て祭りの文化を表現しました。私は特別に忍者に扮した格好をしていましたが、それが珍しく、注目を引きつけたのか、日本文化ブースは大人気でした。

また、パフォーマンスのショーもあり、それぞれの国のダンスパフォーマンスを見ることが出来ました。日本チームはよさこいを披露しました。日本でもよさこいは知られていますが、評判の良さは全く違いました。「あの日本のダンス好きだよ！かっこいいよね！」とってくれる友人もおり、初めていかによさこいがアメリカで日本文化として受け入れられており、評価されているかを肌で実感することが出来ました。本番では、練習通りにうまくいかなかった部分もあり、不完全燃焼に終わったと個人的には感じていましたが、それでも披露後には大きな拍手をいただき、達成感でいっぱいになりました。

このような機会を通じて、普段は授業でしか会わない友達にも日本文化を知ってもらえることが出来ました。日本文化に興味が無い人でも、自然と日本文化を観たり、体験できたりする機会があるという点が非常に魅力的だと思います。その点に関して考えたことが一つあります。異文化理解という言葉があり、「異文化理解」を目的としてプログラムは多くありますが、その言葉は多くの人の中で、お互いの文化に興味のあ



る者だけが「交流」しあう、または、「理解」し合うというものになってしまっており、その文化を受容する人々は勝手に限定されてしまっているのでは？と感じました。例えば、日本の文化について話し合う活動を企画するとなると、集まってくる多くの学生は日本人留学生、もしくは、日本語学科の学生といった場合が多いと思います。日本語学科の学生のような人たちは、誰かが機会を設けなくても、自分自身で文化を一つのシュミ感覚で学んでいくのではないかと感じます。それは単なる学習の一環に過ぎない部分もあり、そのような考え方だと、日本文化を知ってもらえる人はごく限られたものになってしまうと思います。つまり、本当の異文化理解は、元々異文化に興味が無い人が興味を持ち、異文化交流を図っていきその文化に対する理解を深めるといったプロセスを指すべきであり、「異文化理解」を目的とした活動を行うならば、その文化に興味関心を多く持ち合わせていない人を対象とすべきだと思います。そして、いかにそのような人たちに興味を持ってもらえるかを考えていくことが大事だと思います。改めて、「異文化理解」の定義とそれを目的とした活動の改善の必要性を考えさせられました。そのような点を含めても、この International Night は収穫の多い活動となりました。



アラビア語の本。アラビア語を共有する国はいくつかありますが、国々によって方言やアクセントがあるそうです。一緒に博物館を訪れた学生たちとの写真

◎Arab American National Museum Visit (3/25)

さらにもう一つ、今度は私自身が異文化について学ぶという機会がありました。ミシガン州にある Arab American National Museum という博物館に無料で行くというイベントがありましたので、International Night を通じて、異文化を学ぶことに興味を持ったこともあり、即決で参加しました。なかなか Arab の文化となるとぼんやりとしたイメージしか無かったため、新しい発見ばかりでした。例えば、アラブの文化の建築物はドームの形の屋根が多いですが、それは、宗教からの理由などではなく、気温調節のために作られたそうです。また、オハイオ州やミシガン州はアラブの文化を持つ人が多い州で有名であるということもその博物館で知りました。最も印象的に残ったのは、「アラブの国々はテロの国として多くの人に恐れられています、それは偏見であり、ほんの数パーセントの人々がメディアで常に強調されており、必ずしもそのような国々ではない。」というシリア出身の博物館ガイドの方の言葉でした。文化は一般化できない、多種多様なものであるという常識を思い出させてくれました。何かの国の

文化を学ぶ際、受け取る情報に対して批判的な思考を働かせたり、実際に人と交流して知識を深めていたりすることが大切なのではないかと思いました。

今月の報告は以上になります。来月はイースターの祝日や授業についても触れていきたいと思います。(なお、来月の報告書が今年度私の最後の月例報告書になります。)

